

## MACF 礼拝説教要旨

2022年9月4日

### 【イエス様の望まれる生き方】

ルカによる福音書

9:43 人々は皆、神の偉大さに心を打たれた。イエスがなさったすべてのことに、皆が驚いていると、イエスは弟子たちに言われた。

9:44 「この言葉をよく耳に入れておきなさい。人の子は人々の手に引き渡されようとしている。」

9:45 弟子たちはその言葉が分からなかった。彼らには理解できないように隠されていたのである。彼らは、怖くてその言葉について尋ねられなかった。

9:46 弟子たちの間で、自分たちのうちだれがいちばん偉いかという議論が起きた。

9:47 イエスは彼らの心の内を見抜き、一人の子供の手を取り、御自分のそばに立たせて、

9:48 言われた。「わたしの名のためにこの子供を受け入れる者は、わたしを受け入れるのである。わたしを受け入れる者は、わたしをお遣わしになった方を受け入れるのである。あなたがた皆の中で最も小さい者こそ、最も偉い者である。」

9:49 そこで、ヨハネが言った。「先生、お名前を使って悪霊を追い出している者を見ましたが、わたしたちと一緒にあなたに従わないので、やめさせようと思いました。」

9:50 イエスは言われた。「やめさせてはならない。あなたがたに逆らわない者は、あなたがたの味方なのである。」

9:51 イエスは、天に上げられる時期が近づくと、エルサレムに向かう決意を固められた。

9:52 そして、先に使いの者を出された。彼らは行って、イエスのために準備しようと、サマリア人の村に入った。

9:53 しかし、村人はイエスを歓迎しなかった。イエスがエルサレムを目指して進んでおられたからである。

9:54 弟子のヤコブとヨハネはそれを見て、「主よ、お望みなら、天から火を降らせて、彼らを焼き滅ぼしましょうか」と言った。

9:55 イエスは振り向いて二人を戒められた。

\*\*\*

弟子たちはイエス様がなさる奇跡について人々の反応も素晴らしいし、やがてこの方がローマ帝国を打ち滅ぼす王になるのだという意識を持っていたように思います。

でも、イエス様はそういう中で

あえて、

9:44 「この言葉をよく耳に入れておきなさい。人の子は人々の手に引き渡されようとしている。」

とご自分の受けようとしている苦難を強調なさいました。

弟子たちにとってはほとんど意味不明の内容だったようです。

そして、「誰が一番えらいのか」という議論をしている弟子たちに対して大切なことを語りました。

そもそも誰が一番えらいのかという議論は弟子たちの中で何度か繰り返されています。それはイエス様が王になった時、誰がその右に座るのか、誰が偉い地位につけるのかという意識があったからです。

イエスさまは不思議なことを語りました。

#### 1) 子供を受け入れる

9:47 イエスは彼らの心の内を見抜き、一人の子供の手を取り、御自分のそばに立たせて、  
9:48 言われた。「わたしの名のためにこの子供を受け入れる者は、わたしを受け入れるのである。わたしを受け入れる者は、わたしをお遣わしになった方を受け入れるのである。あなたがた皆の中で最も小さい者こそ、最も偉い者である。」

子供を受け入れるものこそ、重要な存在なのだということです。

山浦玄嗣（やまうら はるつぐ）氏が訳した「ガリラヤのイエシュー」によるとこの箇所はこんなふうに訳されていました。

「お取り仕切りを預かるこの俺の言うことをシッカリと守って、取るにたらないこんな洩垂れ小僧を、さあ、どうぞ、どうぞと言って、我が家へお迎えするような者が、この俺をもそうやって迎えてくれる。俺を迎え入れる者は誰でも、俺をおよこしなされたあのお方をお迎えしているのだ。おまえたちのうちで一番小さくなっている者が実は一番偉いからだ。」

子供を受け入れるという部分の描写が生々しく訳されています。

子どもたちへの優しいまなざしと広い心、一緒に喜び、一緒に悲しむ心をもって生きているかどうかです。

#### 2) 自分たちの仲間以外で同じようなことをしている人たちに対して

9:49 そこで、ヨハネが言った。「先生、お名前を使って悪霊を追い出している者を見ましたが、わたしたちと一緒にあなたに従わないので、やめさせようと思いました。」  
いわば営業妨害というような意識でしょうか、それとも、正当なのは我々である人達は亜流だという意識でしょうか。一緒にできないというので、やめさせようとしたということです。

イエスさまは「やめさせてはならない。あなたがたに逆らわない者は、あなたがたの味方なのである。」と言い、おおらかな姿勢を示すように教えました。イエス様の姿勢は「構うな、構うな」という態度でした。

3) イエス様を歓迎しない人たちに対して

サマリアの村に入った時、彼らはイエス様の一行を歓迎しませんでした。ユダヤ人との確執があり、反抗的な態度を取っていたのです。弟子たちがムッとして、こう言いました。

9:54 弟子のヤコブとヨハネはそれを見て、「主よ、お望みなら、天から火を降らせて、彼らを焼き滅ぼしましょうか」と言った。

しかし

9:55 イエスは振り向いて二人を戒められた。

とあります。山浦氏の訳では「イエスさまはグイと振り向き、大雷を落として

「馬鹿なこと語んな」と一喝。この二人を厳しく叱りつけなされた。」とあります。

今日の箇所ではイエスさまは何を教えようとしておられるのでしょうか。

ヒントは「生き方」ということのように思います。そして「優しさ、寛容さ、ゆるす心」。

つまり、イエス様が弟子たちに対して大事なこととして教えているのは

「神学的深さ」というよりむしろ「生き方」です。

あの人に対してどう生きるか。

この人に向かってどう生きるか。

そして、イエス様の示す道は、常に「神の愛に包まれている」ことを前提にして前向きに「愛の道を進むように」励ましておられます。

さて、ここからは、あなたの「日常的な生き方」についての問いかけです。

子供に対して

別の集団の人たちについて

そして

反対する人たちに対して

どのように生きているでしょう。

弟子たちに語られたイエス様の言葉はあなたの心にどう響いているでしょう。

イエス様からのメッセージは実に具体的、实际的、「今、ここでの生き方」

について問いかけられているように思います。

\*\*

MACF 礼拝映像はこちらです。

<https://youtu.be/Dh5xQttuGU4>